

不登校・引きこもり等の課題を抱える青少年支援事業

～諫早自然の家にてみんなね！～

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家

〔期日〕 参加者の希望によって調整する

〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家及びその周辺

〔参加者〕 参加者（諫早市内中学校1年生女子及びその母親）

〔担当職員〕 貞方 貴衣、葛島 隆文、上戸 正仁

1) 趣旨

自然の家での様々な体験活動を通して、不登校、引きこもりなどの課題を抱える青少年に自然体験活動の楽しさや達成感を感じさせ、自己肯定感や自己有用感を高める。また、他者との交流や自然の家での規則正しい生活を通して、基本的な生活習慣づくりのきっかけとする。

2) プログラム

日付	内容
5月3日（火）	焼き板
6月25日（土）	紙すき
8月2日（火）	金泉寺ハイキング
9月3日（土）	バウムクーヘン作り
10月28日（金）	星空観察(コスモス花宇宙館)
12月26日（月）	ピザ窯を使ったお菓子作り
2月11日（土）	焚火
3月21日（火）	ピザ窯を使ったパン作り

3) 活動の様子（※本人及び保護者の意向により、写真の掲載なし）

5月3日（火） 【焼き板】

焼き板を作るクラフト活動を実施した。活動場所（ピロティ）には他家族も利用していたが、同じ空間での活動は抵抗なく実施できた。

6月25日（土） 【紙すき】

活動は集中して取り組むことができた。また、保護者との面談も実施することができた。

8月2日（火） 【金泉寺ハイキング】

所外へ出での活動となった。1時間ほどのハイキングで体力的に疲れた様子もあったが、ちょうど花がきれいな時期であり、植物の観察もすることができた。

9月3日（土） 【バウムクーヘン作り】

作業工程が多いが、親子で協力して作ることができた。食事の際は職員も交えて懇談しながら楽しい時間を過ごすことができた。

10月28日（金） 【星空観察(コスモス花宇宙館)】

学校が終わった夜の時間に来所していただき、所外のコスモス花宇宙館へ赴いた。星空の

解説もしていただきながら観察することができた。

12月26日(月) 【ピザ窯を使ったお菓子作り】

寒い中、手こずりながらクッキー作りを行い、食べることができた。

2月11日(火)【焚火】

焚き付けに使う枯葉や枝を拾い、マッチを使って火おこしをした。すべて自分の力だけで試行錯誤しながら火付けをすることができた。

3月21日(火)【ピザ窯を使ったパン作り】

まとまりにくい生地を一生懸命こね、長い時間をかけ、パンが焼けた際は、みんなで喜んでおいしく食べることができた。

4) 評価

① アンケート結果(事業全体に対する満足度)

満足	やや満足	やや不満	不満
100%	0%	0%	0%

② 参加者の声

- ・大キツネノカミソリ(金泉寺ハイキングの際にみた花) がとてもきれいだった。
- ・土星が写真で見たままの様子で見ることができ感激した。
- ・寒さで思うようにクッキーが作れず残念だったが、火のそばで焚火体験ができ楽しかった。
- ・自然の家は大きな存在です。ありがとうございます。(保護者)

5) 成果と課題

① 成果

- ・昨年度に引き続き、月に一度のペースで活動に来ることができた。
- ・限られた職員だけではなく、何人かの職員の対応により、参加者がより安心して活動に取り組める体制を作ることができた。
- ・男性職員とのかかわりが少しずつできてきている。
- ・屋内での活動だけではなく、屋外の活動も取り組みながら、自分から話をする様子もうかがえるようになった。
- ・徐々に学校にも通う様子がうかがえ、考査や修学旅行へ参加することができたという報告があった。

② 課題

- ・参加者の状況を把握し意向に沿った支援について、職員体制も含め今後さらに強化する必要がある。
- ・連携機関との関係や情報交換を通して、参加者の幅を広げていくことが重要である。
- ・専門的な知識が必要な場面も生じるため、職員間の連携を強化し、対応にあたっていきたい。



目標4 質の高い教育をみんなに

自然体験活動を通して、リラクゼーションを図り、今後のQOL向上のきっかけとする。



目標16 平和と公正をすべての人に

個人の意思決定を重んじ、様々な実態に応じて、学ぶ機会を提供する。